

農林水産省委託業務

令和 4 年度
フードサプライチェーンにおける脱炭素化の実践とその可視化
の在り方検討会 第1回資料

令和 4（2022）年11月

議題2：2022年度の取組方向案と期待する成果
見える化ガイドの更新について



一般社団法人サステナブル経営推進機構

Sustainable Management Promotion Organization

議題2：2022年度の取組方向案と期待する成果

見える化ガイドの更新について

本年度期待する成果物

持続可能な食料システムを構築するために次の二点を念頭におき農産物の簡易算定ツールと見える化ガイドの改定を行う。

- ・ 生産者の理解とアクションの促進
- ・ 持続可能な消費行動への訴求

農産物の温室効果ガス簡易算定ツール

農産物の温室効果ガス簡易算定シートを利用した脱炭素の見える化ガイド（案）

1. 農林水産分野における脱炭素の見える化の背景・必要性
2. 脱炭素の見える化の基本的な考え方
 - （追記案）見える化情報の信頼性について、算定スキームの透明性、結果の第三者チェックなど複数の担保方法があることを記載する（詳細は参考情報に記載）。
3. 農産物の温室効果ガス簡易算定シートの概要
4. 簡易算定シートを利用した脱炭素の見える化の具体的な手順

令和4年度フード
サプライチェーンの
見える化実証・実
証支援委託事業

反映・
フィード
バック

- ・ 簡易算定シートの改善
- ・ 簡易算定シート・見える化ガイドへの生産者の要望
- ・ アンケートによる消費者の声
- ・ 本事業検討会における指摘事項

- 以下のスケジュールに沿い、見える化ガイド（案）の改定を行う。

※ 都度関係部局との協議等を実施

見える化ガイドの改定に係る論点

本年度においては、見える化ガイドの改定をするに当たって、以下について検討を進めていきたい。

1. 実証事業の実施と結果の検証
2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）
ラベルデザイン、運用方法
3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）
4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

論点①

上記について検討を進めるのに、漏れや違和感はないか。

見える化ガイドの更新に係る論点

第一回検討会における各項目の論点は、以下の通り

1. 実証事業の実施と結果の検証

論点② 第2回検討会においてラベル表示に係る課題を抽出、第3回において簡易算定ツールと見える化ガイドの改定に反映させる進め方でよいか

2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）

ラベルデザイン、運用方法

論点③ 表示：等級表示とする方向で検討してはどうか

名称：環境にプラスな行為を表現した名称か、中立的な名称か。

要素：その他、ラベルに追加すべき要素はあるか（数値の記載等）

運用：ラベルの運用は、自己宣言とする方向で検討してはどうか

また、その際の信頼性の担保手法検討の進め方は妥当か

3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）

論点④ 代表的な脱炭素アクションの削減効果例を「脱炭素の見える化ガイド」にて紹介してはどうか

4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

論点⑤ 算定ツールで算定した一次データを企業がSCOPE3データとして利用できるよう見える化ガイドに反映してはどうか。

取組方向案 項目

1. 「見える化」実証事業の実施と結果の検証
2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）
ラベルデザイン、運用方法
3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）
4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

令和4年度 「見える化」 実証の流れ

栽培データ取得・計算

<今年度の試算の流れ>

生産者(あふの環メンバー等)に打診し、算定意向有の場合、栽培データを入手。その県又は地方の通常の栽培と比較した相対削減率を算定。

<使用する栽培データ>

(以下のうち入手可能なもののみ)

- 収穫量
- 生産残渣の取扱い(すき込みか焼却か)
- (水田のみ)中干しの状況
- バイオ炭:種類、施用量
- 農薬、肥料、堆肥:使用量
- ハウス:サイズと素材
- マルチ:使用量
- 燃料・電力:消費量

温室効果ガス
-20%
達成!



ラベル表示

ラベルについて、店頭・広告に表示し、9月17日以降順次売り出し。

イメージ (チラシ)

イメージ (チラシ)

○有機トマト
温室効果ガス削減20%を
達成しました。

(300g) **580** 円(税込)



イメージ (店頭)



<ラベル表示説明案>

農林水産省令和4年度温室効果ガス
排出削減見える化実証事業におい
て、温室効果ガス排出量慣行比
20%削減を達成した農産品です。

QR

測定・検証 (認知度変化等の記録)

<検証内容>

- 認知の有無
- ラベル表示についての印象
(農産物への印象及び販売店舗への印象)
- 購入の有無
- 今後の購入意思の有無

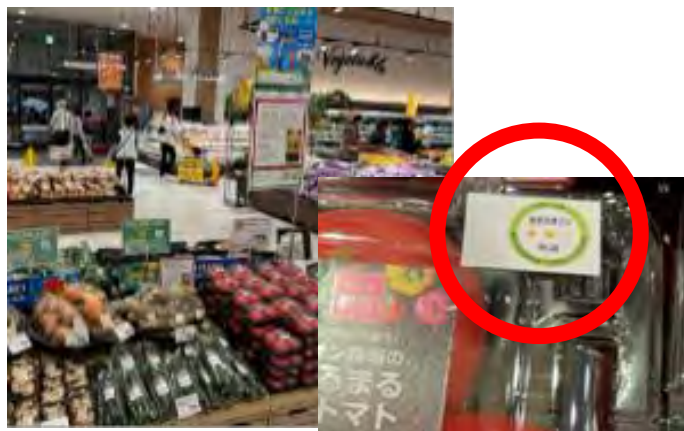
店舗ごとのデータを収集し、効果的なラベル表示方法について検討。



10事業者16店舗(関東、近畿、オンライン等)が実証に協力
(令和4年10月末時点)

9月の実証（サステナウィーク）の様子

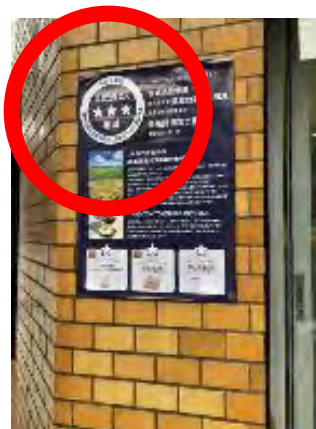
- ①イオンモール幕張新都心店
イオンアグリ創造の木質ボイラー使用トマト、
冬期暖房不使用キュウリ



- ②サンプラザ(大阪のスーパーマーケット)
Kawabata Farmの冬期暖房不使用、
減農薬減肥料トマト



- ③TARO TOKYO ONIGIRI
(虎ノ門のおにぎり販売店)
JAみやぎ登米の栽培期間中化学肥料・
化学農薬5割減のコメ使用おにぎり



- ④無印良品京都山科、
ビオラル((株)ライフのオーガニックスーパー)靱店
日本農業株式会社の栽培期間中 農薬不使用、
減肥料のコメ

- ⑤オイシックス・ラ・大地株式会社
栽培期間中 化学肥料不使用キュウリ
(信州バイオファーム有限会社)(長野県)、
バイオ炭を使用したコメ(有限会社米の里)
(山形県)、有限会社三扇商事(福島県)のキュウリ